

- 1 本書は『日本近世生活絵引』の1巻である。
- 2 本書は、神奈川大学所蔵の秋里籬島著『東海道名所図会』全6巻（寛政9年＝1797年刊）の挿絵から46の描写を選択のうえ、文字説明その他不要と思われる部分を削除し、図像として描かれた事物・行為に番号を付け、それらを表現する語句をキャプションとして与え、また図全体を読み取り解説した。
- 3 図の主題に基づいて以下の5章に編成し、各章の中は原書の記述順である京都から江戸への順序に基づいた。
  - I 街道と生活
  - II 街の賑わい
  - III さまざまな生業
  - IV 行事と娯楽
  - V 名物・名産
- 4 一つの図とそれに対する語句キャプション・読み取り解説を原則として見開き2ページに収録した。従って、対象の図の大きさによって、拡大もしくは縮小しており、原本の大きさとは一致しない。なお、図は必ずしも原本の描いた範囲ではなく、必要に応じてトリミングをし、また詞書きなどは消去してある。
- 5 各図に付ける番号は、以下の原則のいずれかによった。
  - a その図像に与えたテーマに即して、テーマに近い事物から周辺的な事物へと付ける。
  - b 遠近法に従い、図像の中の近いところから遠いところへと付ける。
  - c 描かれた図像内容の時間の展開にそって付ける。
  - d 左上から右下へ付ける。
- 6 番号に対する語の記載に際しては、まとまった全体についての語の場合は○を、また行為を示す場合には□を、それぞれ番号に付けた。
- 7 各事物・行為に付ける語句は、以下の基準によった。
  - a 原則として事物単体にキャプションを付ける。
  - b 名称は図像が描かれた江戸時代の表現・表記を優先させ、（ ）書きで出典を示した。頻出する出典は略称を用いた。略称は以下の通りである。当時の表現が確認できない場合は、現代語で付けた。  
 嬉遊笑覧 → 嬉遊                      守貞謾稿 → 守貞                      旅行用心集 → 用心  
 東海道中膝栗毛 → 膝栗毛                      和漢三才図会 → 和漢
  - c 所作・行為のキャプションは現代語で付けた。
  - d 推測・推定・想像によるキャプションはできるだけ避け、推測・推定・解釈に及ぶことは読み取り解説で記述した。
  - e 挿絵のなかに書かれた文字は読み解いて記載した。事物名称を記載した後に「 」を付けて記した。（例：旅籠「駿河屋」）
- 8 本書の編纂は共同研究の方式で行われ、研究参加者4名全員で検討し、完成させたものであるが、各図の読み取り解説については原稿を作成した者の個性が残されているので、各文末に括弧書きで担当者の名字を記載した。
- 9 本書編纂過程で獲得した知見は、各人が解題と考察編として記述した。
- 10 巻末にはキャプションとして付けた語句についての五十音順索引を付した。